
液晶画面からコンニチワ

水無月五日

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

液晶画面からコンニチワ

【著者名】

Z3837A

【作者名】

水無月五日

【あらすじ】

朝起きたら携帯に異変が…そんなお話です。

…これはどういったことだ？

俺は朝から混乱している。

原因はこれだ。

「おはようございます！！

もう八時前ですよー！学校遅刻しちゃいますよー！」

と、女の声。

…これだけでは解らないな。

ひとつひとつ解決してゆこう。

まず、俺は携帯に起きた。

携帯に毎朝起こされるのは当然だ。

俺の部屋には恥ずかしながら目覚まし時計が無い。

唯一アラーム機能が搭載されたある携帯を目覚まし代わりに使っている。

この機能は最近の、中高校生に限らず、社会人も使っていると思う。うん、これで携帯に起きたのは納得できた。

次に、俺はアラームの音楽設定を最近流行の曲をセットしていた。携帯のメモリーの中には間違つてもこのようなボイスは入つていな

い。

と、なると誰かが勝手に保存し、アラームの音楽をこれに設定したと言つことだ。

まず、考えられるのは兄弟。

生憎俺は一人っ子で兄弟はない。

次に考えられるのは親。

それはありえない。

ビデオのGコード録画操作もろくにできない両親がこんなことを出

来うるはずもない。

最後に考えられるのは友人の悪戯。

だが、俺は元来人に携帯を扱わせるのは好きではないから、此処数ヶ月ずっと家に携帯は置いてある。

以上の点を踏まえてもう一度携帯を見よう。

「だから、遅刻ですよ～このままじゃあ…アレ?聞いてます～

2・8インチの巨大液晶画面には女の子の可愛らしさアニメ調の画像がある。

理解できない。

あと、付け加えるならば俺は待ちつけは風景画にしていたのだが。俺がこうして必死に理解しようとする間も、携帯はやかましく喋る。ふと、部屋の壁掛け時計に目をやると…

AM 08:12 SAT

となっている。

このありえない状況に二十数分も考え込んでいたのか…俺。あることに気がついた。

SAT…今日は土曜日…

「馬鹿、今日学校休みだ阿呆」

俺は携帯にそう吐き捨てるもまた布団をかぶった。

これは夢だと信じて…

夢だとよかつたのだが、そつはいかないらしい。

携帯には相変わらずあの状態。

俺が何をした、一体…

「おはようございます！！

もつお昼ですよ……そんなに寝ていたら脳が解けちゃいますよ……つて、そんなことよりも充電、充電してください……」

携帯の液晶画面を見ると電池マークはあと二つ。

いや、十分だろ？、そんなにまだ残ってるのに充電できるか……バッテリーが駄目になるのが早くなる……

「駄目だ、俺は充電がまだ残ってるうちには充電はしないんだ。してほしけりや電池使い切れ。」

俺は充電コードを携帯に見せ付ける。

画像は田をうるさいさせながら充電してくれと頼み込む。

「じゅ、充電～ツ～！
人殺し～、保険金詐欺～ツ～！」

：何故充電しないだけで此処まで言われなきやいけないのだろうか
：しかも携帯に。

そもそも人じゃないし、お前がどうにかなつたら金払うのは俺だ。

「ちょ、充電しないとムービー撮りますよ、連続[写メ撮りますよ～！

勝手に撮つてろ。

お前は一人じや何にも出来ない。

出来るとしたら真っ暗な画像を撮るだけだ。

「ぴろりんメール着信しました～」

と、唐突だなおい…

メールはそんなものか…

液晶画面に着信一件と表示されてある。

「では、開きますよ」

おい待て、勝手に開くな。
プライバシーの侵害だぞ。

しかも画面だけじゃなくって他の機能も使えるのかお前…

「一件田…

差出人田中…

明日暇か?

暇なら例のフアミレスで飯を食つぜ必ず来いよ…！」

携帯が勝手にメールの内容を声を出して読む。
うーんさすがヨロサウンド…響くぜ…

いや、だから勝手に開くなつて…訴えるぞ。

訴えた時点で俺は病院へ搬送されそعداً…頭の病院に。

「一件田…

差出人恋のキュー・ピット…

若いあなたにチャンスが待つています！
えつちな…」

無言でパワー・ボタンを押す。

いーち、にーい、さあーん…

ほら電源切れたよー！
わあすゞーーー！

「ひどいです！…何で電源を落とすんですか…」

ち、自動電源オンを使いやがったな…
迷惑メールを読むから悪いのだ。

といふか何で俺の携帯にこのよつた異常事態が…
このよつたアブリは入れた記憶は無い…
ん、そういうや今日は確か近所のスーパーの安売りだったな…
ちょっと飲み物でも買いに行くか…
俺は立ち上がり、財布を片手に持つ。

「あれれ、どこか行くんですか、行くんなら私も携帯してく下さい
よー」

携帯が携帯しろって言つた…

そしてお前を携帯するのは断る。
元のおとなしい携帯に戻つたら携帯してやる。

「やーだやーだ、携帯を携帯しないなんて非常識です…！」

携帯はまだ譲らない…
こうなつたら最終奥義…
電池パック抜いて放置…!
これでオッケーさ…!
はあ…これから俺はこの奇妙な携帯と暮らさなければいけないのか…
なんでこいつなつたんだろう…

(後書き)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3837a/>

液晶画面からコンニチワ

2010年10月21日23時27分発行